

ぼくのおじいちゃん

石垣市立登野城小学校三年 宮里 一誓

ことしの四月

ぼくのおじいちゃんが

八十さいになった

せんそう中に

ぼう空ごうでうまれたって

おじいちゃんが話してくれたよ

石垣島にも空しゅうがあって

家の近くのおかに

穴をほってかくれたんだって

おじいちゃんがおなかの中にいるから

遠くくにげられなかったんだって

ぼく、聞きたいことがあるよ

まっくらでこわくなかったかな

ごはんはあったのかな

びょういんがないのに

どうやってうんだのかな

お母さんから聞いたよ

ぼくが生まれたときは

たいへんだったって

ぼくが生まれたときは

お父さんも

お母さんも

お姉ちゃんも

おじいちゃんも

おばあちゃんも

みんな みんな

よろこんでくれたんだって

せんそうって

なんでおこるのかな

どうしてやめないのかな

やったらダメ!!って

わからないのかな

ぼくは 知っているよ

やっていいこと わるいこと

まちがえたら

ごめんなさい

やってもらったら

ありがとう

それから

自分のいのちも

みんなのいのちも

大切にすること

自分の気もちを言葉にすること

あの日 ぼう空ごうで

おじいちゃんがうまれて

生きのびて

お母さんが生まれて

今

ぼくがいる

ぼくは聞きたいことがまだまだあるよ

今は

へいわになったかな

どうしたら

みんながえがおになるのかな

おじいちゃん

あんしんしてね

ぼくが いっしょうけんめい考えて

みんなをえがおにするからね